

「知ろう！学ぼう！『とやまポーク』トークセッション」を開催しました

1 日時 令和元年12月20日(金) 14:30~16:30

2 場所 富山県民共生センター サンフォルテ 研修室307

3 内容

○講演 「CSF（豚熱）の発生と対策について」

麻布大学 獣医学部獣医学科 伝染病学研究室 教授 長井 誠 氏

CSF(豚熱)は豚といのししの病気であり、人には感染しない。病原体はウイルスだが、中国で感染が広がっているASF(アフリカ豚熱)とは別のウイルスである。CSFは伝染力が強く治療法が無いため、発生した場合に家畜業界への影響が甚大であることから、発生した農場の飼養豚は全て殺処分されることとなっている。



講演会の様子

国のCSF対策として、現在はCSF陽性のいのししが確認された県でCSFワクチンの接種が行われている。このワクチンは昭和44年から平成18年まで37年間にわたって、国内のほとんどの豚に使用されていた実績があり、安全性が高いワクチンである。国はワクチン接種の他に、養豚農場におけるバイオセキュリティの向上や人・モノを介したウイルス拡散防止対策、空港等における水際検疫体制強化などを進めている。

また、CSFウイルスを拡散する野生いのししへの対策も重要であり、いのししの捕獲・検査の強化や、いのししへの経口ワクチンの散布が行われている。

○意見交換「県産豚肉の安全性について」

コーディネーター：長井 誠 氏 麻布大学 獣医学部獣医学科 教授

パネリスト：新村 嘉久 氏 富山県養豚組合連合会 会長

(富山県及び新潟県で養豚業を営む。有限会社 シンムラ 代表取締役)

中川 清一 氏 富山県食肉事業協同組合連合会 会長

(株式会社 マルチョウ神戸屋 代表取締役)

相原 真美 氏 富山県消費者協会 事務局長

(消費者教育啓発活動や消費生活等に関する調査等に従事)

堀元 栄詞 氏 (富山県食肉検査所)

(と畜検査員として食肉の検査業務に従事)

蓮沼 俊哉 氏 (富山県農業技術課)

(家畜衛生主任者として家畜防疫業務の統括)

質問：CSFワクチンの子豚に接種しないのはなぜですか。

回答：子豚は母豚のお乳を飲んでおり、そのお乳には抗体が含まれているので、ワクチンを打っても十分にワクチンの効果が得られないため。(長井教授)



意見交換会の様子

質問：A S Fが日本に侵入する可能性について教えてほしい。

回答：侵入の可能性についてははっきり申し上げられないが、国では空港で探知犬や靴底消毒などを利用して侵入防止対策を図っている。(蓮沼氏)

質問：鳥インフルエンザが突然変異で人間に感染するように、CSFも変異する可能性はありますか。

回答：鳥インフルエンザとヒトのインフルエンザはウイルスの形が似ているため、鳥インフルエンザのヒトへの感染が起こる。しかし、CSFウイルスが属しているペスチウイルス属にはヒトに感染するウイルスはいないため、変異が起きてもヒトに感染するウイルスにはならないと考えられている。(長井教授)

質問：CSFは人には感染しないのに、農場で発生した場合に感染した豚だけでなく、なぜ農場全体の豚を殺処分しなくてはいけないのですか。

回答：ウイルスは生きた動物の中で急速に増殖して拡散されるため、感染した可能性のある豚を殺処分しなくてはいけない。また、ワクチンを接種していても、農場内で感染が確認されれば、野外からウイルスが入ったということなので、ワクチンのウイルスと混ざってしまうことを防ぐために、全て殺処分することとなっている。(長井教授)

〇とやまポーク試食会

とやまポークをしゃぶしゃぶで試食しながら、生産者の安全に対するこだわりについて理解を深めた。また、食肉の安全性について説明するパネル等を会場に常設し、見学してもらった。



試食会の様子

4 その他

来場者へのアンケートでは、「CSFに対して不安があったが、今回参加して豚肉が心配なく食べられると感じた」、「豚肉に対する安全・安心の取組みについて理解できたので、県産の豚肉を購入したいと思った」などの意見をいただきました。